第75回 熊本大学とホーチミン工科大学のJICAプロジェクト

- 熊本大学がJICA（独立行政法人国際協力機構）から受託している「ホーチミン工科大学地域連携機能強化プロジェクトフェーズ2（SUPREM-HCMUT）」では、JICAプロジェクトチームが中心となり、地域との連携強化と研究中心教育の推進を目指し、共同研究、特許申請支援等を行っている。

©2011 合林（曽山）夏菜

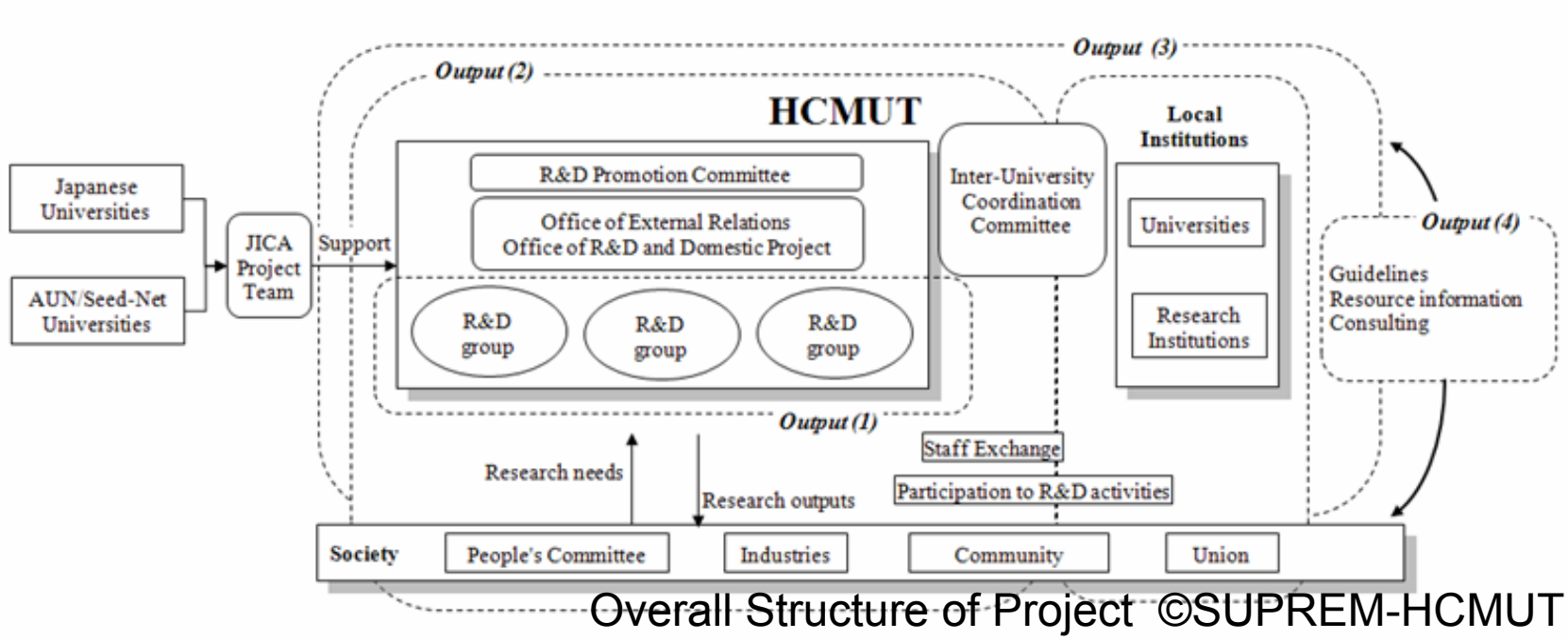
ホーチミン工科大学(HCMUT)

- ベトナムの国家大学(の所属校)
- 2010年、熊大と交流協定調印

調印式@第8回熊本大学フォーラムinハノイ
photo by T. Usagawa

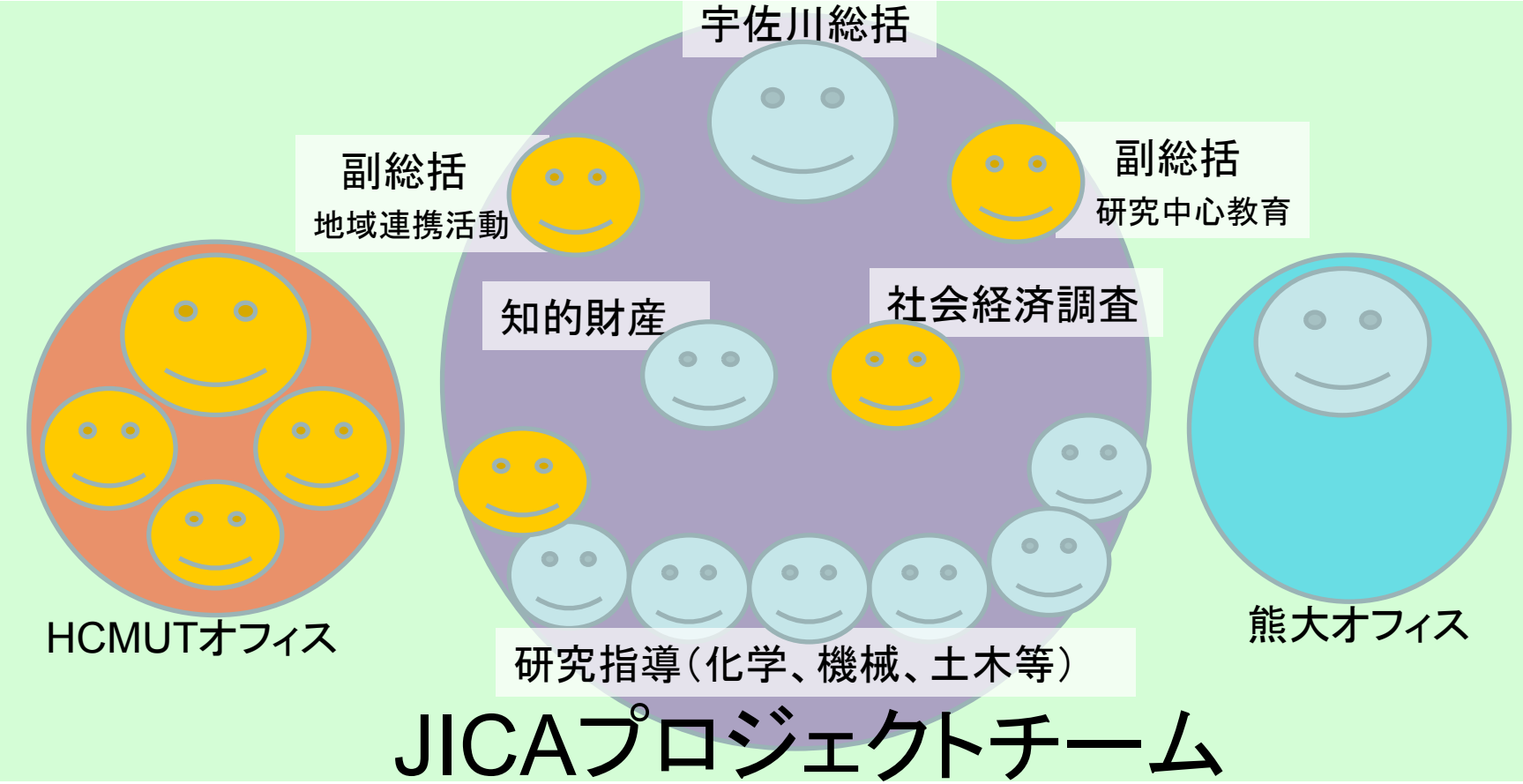
ホーチミン工科大学地域連携機能強化プロジェクト フェーズ2

- フェーズ1（2006.1～2009.1）：豊橋技術科学大学が受注
- フェーズ2（2009.3～2012.9?）：熊本大学が受注
- 年間事業予算 :約1億円 [案件概要（JICAサイト）] [プロジェクトHP]
- ベトナムで実施中のJICAプロジェクト :114件（2010.7現在）



Overall Structure of Project ©SUPREM-HCMUT

チーム構成


宇佐川総括
副総括
地域連携活動
副総括
研究中心教育
知的財産
社会経済調査
HCMUTオフィス
熊大オフィス
研究指導（化学、機械、土木等）
JICAプロジェクトチーム

研究中心教育（RBE）

これまでの修士課程
講義中心

↓

共同研究に院生参加、
2年間指導→修士論文

↓

Research Based Education
・社会のニーズに応える
人材育成

HCMUTの修士・学部生@第8回熊本大学フォーラムinハノイ
photo by T. Usagawa

共同研究（Joint Research）①

- モデルラボ：教員＆院生＆省（province）の研究者
- JICAプロジェクトチームの専門家が協力

- 地域社会に根ざしたテーマの数々
「カシューナッツの殻むき機の開発」
「バイク燃料としてのバイオガスの圧縮・貯蔵と利用」
「水産加工処理廃棄物からのコラーゲン抽出」など

- 国際学会での発表や国際ジャーナルへの掲載の支援（旅費・登録料補助）も

- 本邦研修実施
2010年度は7件×1か月

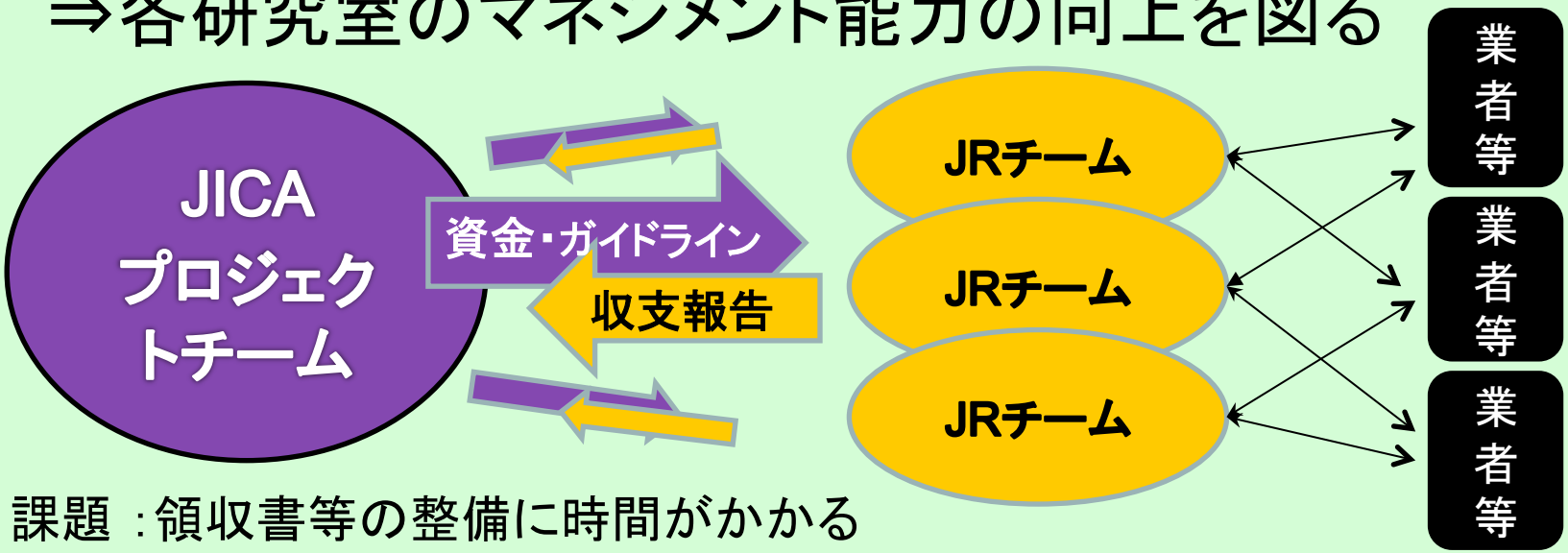
ポスターセッション@第8回熊本大学フォーラムinハノイ
photo by T. Usagawa

共同研究（Joint Research）②

- 研究資金 ：ブロックグラント方式*を採用

  *総額のみ決めて支給、使途はJRチーム裁量

  ⇒各研究室のマネジメント能力の向上を図る



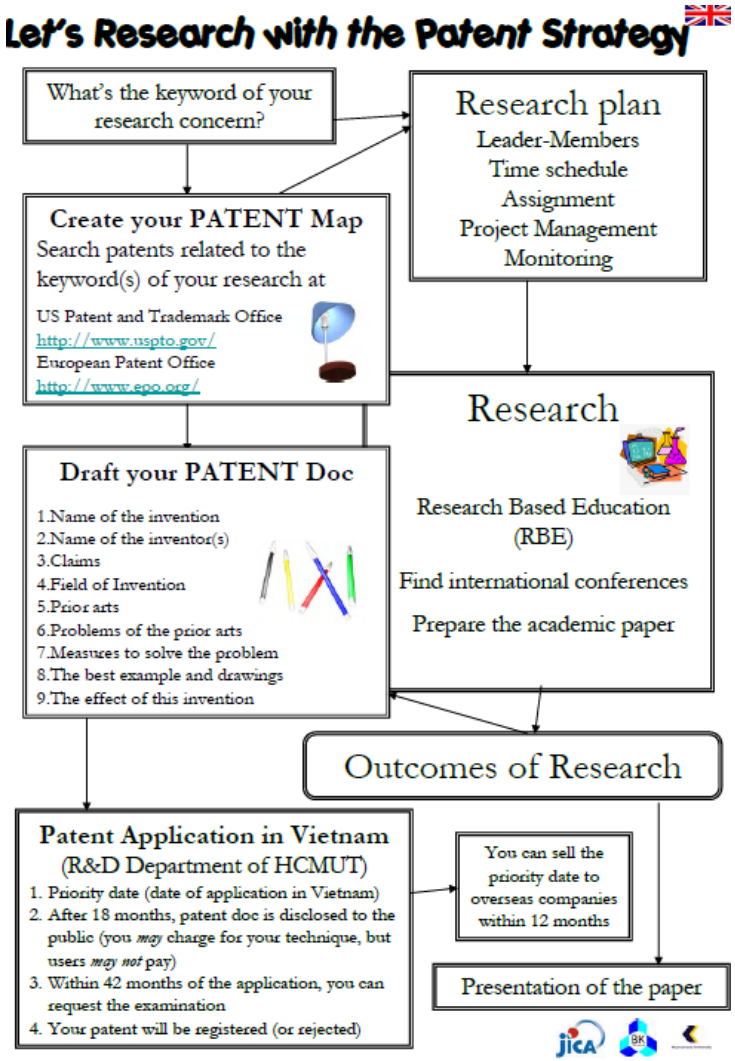
- 課題 ：領収書等の整備に時間がかかる

  分析の外注が常態化している⇒限度を会計ガイドラインで提示

特許申請支援① powered by Prof. Dr. Iriguchi

- 知的財産専門家による講義、ラボ訪問
  ⇒各モデルラボの戦略的特許申請を支援
- パテントマップ作成指導
  「特許情報を整理・分析・加工して図面、グラフ、表などで表したものが『特許マップ』である」
  「特許マップとは」(特許庁サイト)より

Let's Research with the Patent Strategy
©SUPREM-HCMUT



特許申請支援② powered by Prof. Dr. Iriguchi

- パテントマップ作成指導（フォーム提供、例示等）

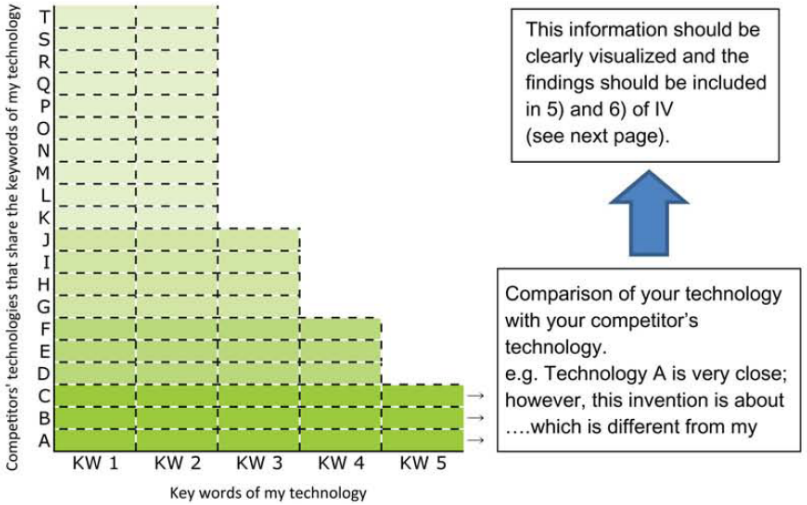
My Patent Map

Research ID: B2 -__
Research Topic: _____

August , 2010

Key Words of the research	(1) (2) ....
Results of patent search in the related field (USA)	US Patent and Trademark Office (USPTO) http://patft.uspto.gov/ Issued patents (quick saearch) which are close to my research Potential research topics/fields
Results of patent search in the related field (EU)	European Patent Office (EPO) http://www.epo.org/ Issued patents (quick saearch) which are close to my research Potential research topics/fields
Candidate technologies on which patents can be applied for through the joint research	

3. Try to visualize the results.
Help evaluate the worth of the technology you intend to develop through visualization (such as making tables, charts and graphs).



Patent Mapping (Ver. January 2011より抜粋）©SUPREM-HCMUT
（詳細はプロジェクトサイト参照）